

- ねらい
自分たちのつくったかけ算の問題を解き合う活動を通して、かけ算の問題場面を表現したり問題場面と式の整合性を判断したりすることができると期待する。
- 指導上の留意点
 - 作った問題を解き合う際は、まず問題を全体で解くことで、交流の手順が理解できるようにする。
 - 出題に間違いがあった場合の修正の仕方を確認すること、自分たちで問題場面と式の整合性を整えることができるようにする。

かけ算になるもんだいをつくつてときあおう。

みかんがぜんぶで何こあるかをめるもんだい

もんだいカード	しぎ	もんだい	おかしが	こずつ
2×3		みかんが1ざらに	れつは	ぜんぶで何こ
		のつたざらが	あります。	
		あります。みかんは		
		何こ		

2 こずつが3さら分ある。

おかしがぜんぶで何こあるかをめるもんだい

もんだいカード	しぎ	もんだい	おかしが	こずつ
3×4		おかしは	ぜんぶで何こ	
		あります。		

3 こずつが4れつ分ある。

○○さんのもんだいしぎ × = 分ある。

ふりかえり
もんだいをつくる時、
もんだいをつくる時、

1 九九カードでカルタ遊びをする。

2 問題の作り方を発表する。

○何を求める問題かを確認し、教科書の空欄に数字を書き込むことで、基準量といくつ分を捉えることができるようにする。

3 問題カードを作る。

○個の実態に応じて、「もんだいカード」は式・答え、絵、文のどれからかいてもよいこととする。

○問題の題材が見つけにくい児童には、教科書P. 20の挿絵や「九九カード」などを参考にさせることで、かけ算の問題場面を表現することができるようにする。

4 問題を解き合う。

○問題を解いた後、式・答え、立式の理由を説明することで、かけ算の問題場面と式の整合性を判断することができるようにする。

○グループ内で解き合い、「基準量」と「いくつ分」を絵と問題文で確認することで、かけ算の問題場面と式の整合性を判断することができるようにする。

5 振り返りをする。

評価

進んでかけ算の問題をつくったり、解いたりすることができたか。
(関心・意欲・態度)
かけ算の問題場面と式の整合性を判断することができたか。
(数学的な考え方)

1. 主眼

一つ分の大きさやそれを集めたままにに着目して、かけ算を活用して考えられることができる。

2. 研究主題とのかかわり (本時)

視点1 基礎・基本の定着について
 ○既習事項の確認で、2つの量「一つ分の大きさ」と「いくつ分」に着目させる。

視点2 活用する力をつけるために

○多面的な見方ができるアレイ図に線を引きせたり、囲ませたりすることで多様な考え方を引き出せるようになる。

○ペア学習を取り入れ、友達との考えに触れたり、自分の考えを説明したりできるようにする。

3. 評価

考乗法と加法、乗法と減法が組み合わされた解き方を考えることができる。

かけ算をつかってくふうしてもめよう。

チヨコレートは、何こありますか。

作せん



線をひく

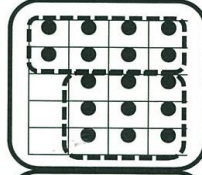
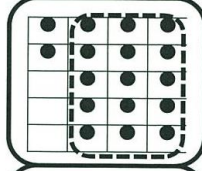
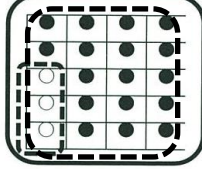
ひき算をつかう

たし算をつかう

かけてひく

かけてたす

わけてかけてたす



$4 \times 5 = 20$
 $20 - 3 = 17$

$3 \times 5 = 15$
 $15 + 2 = 17$

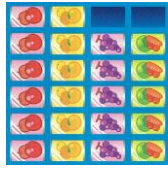
$3 \times 3 = 9$
 $4 \times 2 = 8$
 $9 + 8 = 17$

まとめ

かけ算とたし算
 やひき算をつかうと数をもとめることができる。

れんしゅもんだい

ジュースは、ぜんぶで何本ありますか。



$4 \times 5 = 20$

$20 + 2 = 22$

22本

$4 \times 6 = 24$

$24 - 2 = 22$

22本

ふりかえり

①本時の課題をつかむ。

◆フラッシュカードを使って、前時までの復習をすることで、本時の課題の見通しをもてるようにする。

②自分の考えをもつ。

◆ワークシートにどの方向からでも考えられる図を使うことで、多様な考えを引き出せるようにする。

③考え方を話し合う。

◆図と式を提示する児童と説明する児童を変えすることで、考え方の同じところや違うところに気付くことができるようにする。

◆“かけてひく”“かけてたす”など考え方を言葉で表すことで、どの考え方もかけ算を使っていることやかけ算とたし算、かけ算とひき算を組み合わせていることに気付かせる。

④練習問題を解く。

◆難しい児童には、図に線を引きせたり、囲ませたりすることで、かけ算で求められまとまりをとらせることができるようにする。

◆ペアで考え方や答えを確認し合うことで、理解を深めたり、多様な意見に触れたりできるようにする。

⑤学習を振り返る。

◆まとめに触れている児童を紹介することで、本時を振り返り、次時の意欲付けになるようにする。

1 主眼

ウェブの映像の中から伴って変わる2つの数量に着目し、表やグラフに示しながら比例であることを説明できるようにする。

2 指導上の留意点

- ① 2つの数量の関係を判断する力をつけるために、表、グラフ、式における、何と何が比例の関係にあるかを常に意識させる。
- ② 問題解決のために、どのような知識や技能を活用すればよいかを見通せるように、授業の流れの中で既習事項を振り返る活動を仕組む。
- ③ 筋道立てて話したり書いたりする力を育てるために、算数的言語を用いて表現する活動を仕組む。

3 評価

2つの数量を、グラフや表を根拠に、比例とみなすことができたか。(ホワイトボード、説明)

1 1/2

めあて
全校児童がウェブをするのにかかる時間を予想しよう。

〈手がかり〉

人数(人)	時間(秒)
48	9.6
25	5
10	2
40	8
30	6

表

グラフ

- 〈きまり〉
- ・グラフにすると0を通り右上がりの直線だから比例
 - ・表から、時間が2倍3倍になるから比例
 - ・表から、時間÷人数がいつも0.2になるから比例

人数と時間は比例している

まとめ

2つの数が比例していることを見つげると、実際に測れないものも予想することができる。

〈解き方〉

$y = 0.2 \times x$ $x = 250$ だから $y = 50$ 答え 50秒

表やグラフを $x = 250$ まで延長すると $y = 50$ 答え 50秒

$250 \div 10 = 25$ $2 \times 25 = 50$ 答え 50秒

〈練習〉

人数と時間は比例しているので、
 $x = 15000$ だから、
 $y = 0.2 \times 15000$
 $y = 3000$
 $3000 \text{秒} = 50 \text{分}$ 答え 50分

1 ウェブの映像を見て題意をつかむ。

全校児童でウェブをするのにかかる時間を予想しよう。

- ・映像を見ながら、気をつけたい2つの量に目を向けさせる。
- ・T2は手がかりとなる数値を6個知らせ、規則性に目を向けさせる。

2 全校児童でウェブをしたときの時間を求める方法を考える。

人数と時間のグラフや表から、考えを見よう。

- ・グラフをかけた表にしたりして、比例の根拠を示して説明させる。
- ・比例を使って答えを求めさせる。

3 比例の性質を使って求める方法をまとめる。

2つの数が比例していることを見つげると、実際に測れないものも予想することができるね。

- ・班で意見をまとめて他の班が納得できよう説明をホワイトボードにまとめさせる。
- ・全体指導で比例の関係を押さえる。

4 学習を振り返り、適用題を解く。

このウェブを田布施町民全員で行ったら、何分かかかるかな?

- ・比例とみなすことで、実際には測れないものでも予想できるよさを伝える。

1 ねらい

大豆を約 100 個ずつ分ける方法を話し合うことを通して、工夫して平均を活用することができる。

2 指導上の留意点

①課題把握・・・必然性のある課題の提供

②話し合い

- ・概数の求め方
- ・有効桁数
- ・電子天秤の使い方

既習事項の確認
(算数的条件)

③班で考えた方法をワークシートにまとめる

- ・見通し→操作→思考→検証
- ・教師の話し合いへの適切な介入 (質問、確認、認証、ゆさぶり)
- (助言、予め 100 個に分けた大豆を利用する)
- (考えた方法で検証し確かめる)
- 話し合いの役割分担
- ・リダー (進行ととりまとめ)
- ・記録 (発表資料用意) →ワークシートへの記入
- ・説明 (他の班の情報収集者への対応)
- ・収集 (他班の情報収集と復伝)

④発表

- ・平均の活用の仕方
- ・根拠の説明 (図表)
- ・質問や意見から考えを深めていく
- ⑤まとめと振り返り
- ・ワークシートを使って学習を振り返る

評価

平均を使って大豆のセットを一人で早く簡単に活用する方法を考えることができたか。

①

めあて

植物の発芽の実験をするために、1 セット約 100 個入り的大豆が 1 人につき 4 セットあります。5 年生 85 名で 340 セットが必要です。一人で、早く簡単に用意できる方法を考えよう。

○班 大豆 100 個の重さを 5 回計り

りその平均を出す。

表 回 1 2 3 4 5

重さ ○ ○ ○ ○ ○

式 合計÷回数

考え方 100 個の重さの平均

○班 大豆 100 個の重さを 10 回計り

りその平均を出す。

表 回 1 2 3 4 5 …… 10

重さ ○ ○ ○ ○ ○ …… ○

式 合計÷回数

考え方 100 個の重さの平均

②

概数

・約 100

95～104

・上から 2 けた
・四捨五入

32.4→32

0.324→0.32

・電子てんびん

(ゼロ合わせ)

○班 大豆 10 個の重さを 5 回計り

りその平均を出す。

表 回 1 2 3 4 5

重さ ○ ○ ○ ○ ○

式 合計÷回数

考え方 10 個の重さの平均の 10 倍

③

○班 大豆 1 個の重さを 5 回計り

りその平均を出す。

表 回 1 2 3 4 5

重さ ○ ○ ○ ○ ○

式 合計÷回数

考え方

○班 大豆 1 個の重さを 10 回計り

りその平均を出す。

表 回 1 2 3 4 5 …… 10

重さ ○ ○ ○ ○ ○ …… ○

式 合計÷回数

考え方 1 個の重さの平均の 100 倍

④

・ 100 個を数えるのは結構難しかった。

(100 個に分けた大豆の利用は有効)

・ 1 個の重さの平均を 100 倍するのは簡単だったが本当に正しいのか？

・ 10 個の重さの平均を 10 倍する。

・ どの方法も重さの平均を利用している。

⑤ * どの考え方も平均を使っている。考えた方法で確かめたら約 100 個になった。(課題は達成) どれが一番簡単か……

本時の流れ

- ① めあての確認、課題をつかむ。
- ② 早く簡単に大豆を用意する方法について班で話し合う。
- ③ 考えた方法をワークシートにまとめる。
- ④ 考えを発表する。発表→質問→意見→考えの深まり
- ⑤ まとめと振り返りをする。

大切にしたい考え

- ・ 児童にとって必然性のある問題であることが大切。
 - ・ 既習事項の理解や活用、正しい計測技能の習熟が大切。
 - ・ 有効な思考や話し合いには、筋道の通った考え方や見通しが大切。
 - ・ 問題の解決には演繹的な方法、帰納的な方法のどちらでも結論には根拠とその説明が大切。
 - ・ 一人ひとりが主体的話し合いに取り組みめるよう各々の役割を果たすことが大切。
- これらの学習活動は単元学習全体を通して習熟していく。

板書型指導案

「単元名 比例と反比例」第6学年1組 算数科学習指導案
(8/16時間) 準備物; 学習カード (確かめ方A、B)

防府市立西浦小学校
指導者 河野 貴 男

1. 主眼

花火の音が伝わる時間と距離について比例の関係かどうか、表や式を使って調べることができるように通して、比例についての理解を深める。

2. 指導上の留意点

①既習内容を想起させることで、解決への見通しをもつことができるようにする。【支援①】

②知りたいx、yの値が記入された学習カード(A、B)を選択できるようにすることで、既習内容を主体的に活用できるようにする。【支援②】

③比例の関係の確かめ方について振り返ることで、本時で学習したことをまとめ、価値付ける。【支援③】

④比例の式をもとに値を求めることを中心とするが、表を横に見て値を求める考え方も認めていくことで、数量の関係の見方を深めたい。【支援④】

3. 評価

※2つの数量が比例の関係かどうか、表や式を使って、数値を根拠として判断し、説明することができたか。

【発言・学習カード】

花火から西浦小までのきよりは何mでしょうか。

松崎小・・・	696 m	2 秒
佐波小・・・	(1392)m	4 秒
勝間小・・・	(1740)m	5 秒
右田小・・・	(2088)m	6 秒
西浦小・・・	(6612)m	19 秒

めあて

花火の音が聞こえた時間と、
花火からのきよりは比例しているか、調べよう。

A・・・表を横に見る。

B・・・表を縦に見る。

花火の音が聞こえた時間 x (秒)	2	4	5	6	19
天満宮からの距離 y (m)	696				?

A 表を横に見る。 B 表を縦に見る。

xの値が2、4、6の時、対応するyの値について、

$$1392 \div 696 = 2$$

$$2088 \div 696 = 3$$

xの値が2倍、3倍…になると、yの値も2倍、3倍…になるので、比例している。

$$\bullet 696 \div 2 = 348$$

$$\bullet 1392 \div 4 = 348$$

$$\bullet 1740 \div 5 = 348$$

yの値÷xの値=きまった数になるので、比例している。

まとめ 比例しているか確かめるには・・・

① 本時の課題について知り、既習の学習から解決の見通しをもつ。(5分)

T:松崎小までの距離をもとに、西浦小までの距離が分かるかな。

S:1秒あたりの距離が分かればできるよ。

S:比例していれば、計算できるよ。

T:本時に比例しているのかな。どうすれば比例しているか、確かめられるかな。

【支援①】

S:表を横に見て、xが2倍、3倍…のときにyも2倍、3倍…になっているか調べてみればいいよ。

S:表を縦に見て、y÷xが、きまった数になるか調べてみれば分かるな。

② 表を縦に見たり横に見たりして、具体的な数値を根拠にした説明を考える。(20分)

T:確かめたい方法を選んで比例しているかどうか調べよう。【支援②】

A) A、Bの確かめ方を選択し、一人ひとりで取り組む。

I) A、B同士で交流し、説明ができるように確認する。

U) ペアでそれぞれの考え方を説明し、交流する。

E) 全体で発表して比例しているか確かめる。【評価】

③ まとめをする。(5分)

T:「比例しているかどうか確かめるには」に続けて、まとめをしましょう。【支援③】

④ 西浦小までの距離を求める。(10分)

T:比例していることを利用して、西浦小までの距離を求めてみよう。【支援④】

S:yの値=きまった数×xの値で求められそう。

⑤ 振り返りをする。(5分)

T:今日の学習を振り返り、分かったことや友達のよかったことを書きましよう。

1 主眼

人口密度について理解し、山口県内の市や町の人口密度を計算することができる。

2 指導上の留意点

- ① 第1時で学習した方法を活用して計算すれば、市や町の混みぐあい(人口密度)を求められるということとをグループによる話し合いで見つけさせたい。
- ② ICTを活用して3つの市(美祿市・山陽小野田市・山口市)の1㎏あたりの混み具合を視覚的に提示することにより、人口密度の量感を捉えさせたい。

③ 「ときめき」というキーワードで振り返りをさせる。

- ・...友だちのこと
- ・...気持ちを入れること
- ・...めあてについて書くこと
- ・...聞きたい知りたいことなど

3 評価

前の時間に学習したことを生かして、人口密度の課題を解いている。

3つの市が、㉗～㉙のどれにあてはまるかを3人が考えています。

面積(㎏)	人口(人)
473	26134
133	62645
1023	194023



面積 美祿市 473 > 山陽小野田市 133
人口 美祿市 26134 < 山陽小野田市 62645

面積 美祿市 473 山口市 1023
人口 美祿市 26134 山口市 194023
約2倍

1㎏あたりの人口で比べると、
A 26134÷473=55.2... 1㎏あたり約55人
B 62645÷133=471.0... 1㎏あたり約471人
C 194023÷1023=189.6... 1㎏あたり約190人
約6倍



人口のこみぐあいを比べるのもっともよい方法を考えよう

山口県人口密度ランキング

市	面積(㎏)	人口(人)	順位
下松市	89	55261	1
防府市	189	115586	2
宇部市	287	168727	3
和木町	11	6222	4
光市	92	51184	5
下関市	716	268232	6
平生町	35	12862	7
田布施町	50	15303	9
柳井市	140	32656	10
周南市	656	144267	11
岩国市	874	136475	12
周防大島町	138	17006	13
長門市	357	35088	15
上関町	35	2831	16
萩市	698	49170	17
阿武町	116	3445	19

人口密度を求めてみよう



- ふりかえり
- と き め き
- と き め き
- と き め き
- と き め き
- と き め き

人口密度の考え方
人口(人)÷面積(㎏)



本時の流れ

- ① 美祿市・山陽小野田市・山口市は「面積のわりに人口が多い市や町ランキング」の㉗～㉙のどれにあてはまるのかを予想する。【全体】
- ② ランキングにあてはまる場所を調べるための3人の求め方で、見積もりや計算をする。【個人】
 - ◆ これまでに学習したこと(関係図・概数・単位量あたり)を活用させる。
 - ③ 3人の求め方で一番速く正確に求められるものはどれかをグループで話し合う。【グループ】
 - ◆ 量の広さと子どもの人数の課題と同様の1㎏あたりで求めることが最適であることに気付かせたい。
 - ④ ちほさんの考え方(1㎏あたりの人口)が人口密度の求め方であることを知り、2枚目のワークシートのランキング表㉑～㉙の人口密度をグループで協力して計算する。【グループ】
 - ◆ 3つの市の人口密度の量感を捉えさせるために、ICTを活用して実際に黒い点の数で画面上に表示する。
 - ⑤ 「ときめき」の観点と字数制限という条件に沿って、本時の学習の振り返りを書く。

1 本時のねらい

和と差の見積り方を考えたり説明したりする活動を通して、目的に応じた和や差の見積り方やその良さを理解するとともに、既習事項や他の考えと関連付けて考える力を伸ばすことができる。

2 指導のポイント

教科書問題に複数の情報を加えた問題場面を提示し、四捨五入、切り上げ、切り捨てで求める概算の仕方を考え、説明する場を設定する。説明する活動では、「式を選ぶ」活動を仕組むことで、概算同士を比べたり、問題文と結び付けたりさせる。その際、思考スキルを使って考えさせることで、その根拠を説明する力を高めたい。

○習得すること：和と差の見積りの仕方

○活用する力：四捨五入、切り上げ、切り捨てでの概算を比べて「なぜその概算を選んだのか」を説明したり、「だから」をつかって判断結果を説明したりして、概算を目的に応じて選び、そう判断した根拠を説明する力

3 評価

目的に応じた和と差の見積り方を理解し、説明することができたか。

4 学習の展開

① 問題場面を把握し、本時の学習のめあてをつかむ。(習得)

和の概算をするには、どんな概数にすればいいのかな。

教科書の問題に複数の情報を加えた問題文を提示する。「どんなことが気になるか」を問う、生活経験から「だいたいいくら」「たりるか」といった概算につながる考え方を引き出す。さらに、買い物場面の設定から実際の計算をするよりも概算の方が良いことも気付かせたい。

その後、概算という用語やその意味を確認しながら、本時のめあてを知らせる。同時に本時のゴールを知らせることで、本時の学習の見通しを持たせたい。

② 四捨五入、切り上げ、切り捨てで求める概算の仕方を考え、話し合う。(活用)

はるかさん、お父さん、お母さんは、どの概算をしたのかな。

まず、「約何万円円になるか」が気になるはるかさんの概算から考えさせる。ここで5つの概算が書かれたカードを提示し、はるかさんの概算を選ぶ場面を仕組む。次に、「たりるか」「こえるか」が気になる母と父の概算も5つのカードから選べる。いずれも「なぜ〇〇さんの概算といえる(いけない)のか」を問い、それぞれの目的からの概算を用いるのが適当かを考えさせる。この時、既習事項と関連付けながら「切り上げは～な時に使うので…」と説明させることで、概算決定の決め手は目的であることに気付かせたい。

デジタルカメラ
35980円

プリンタ
21350円

11/18 和のがい算では
どんながい算をすればいいのかな？

暗算は難しい？

先にがい数にして計算！

はるか(だいたいいくら)
約何万円円になる？

お母さん(たりのかな)
70000円以下になる？

お父さん(こえるかな)
50000円以上になる？

四捨五入、切り上げ、
切り捨てを選ぶ！！

36000+21000
=57000
① 約57000円

36000+21400
=57400
② 約57400円

40000+20000
=60000
③ 約60000円

40000+30000
=70000
④ 約70000円

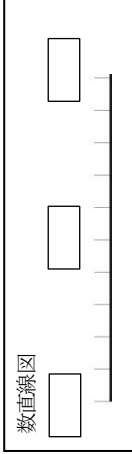
四捨五入して
千の位までのがい数

四捨五入して
百の位まで

四捨五入して
一万の位まで

切り捨てして
一万の位まで

をすると、
() がわかります。
だから、
() すればいい！



③ 和の概算の決め手について話し合う。(活用)

はるかさんとお父さんとお母さんは、その概算をしてよかったといえるのかな。

3人の概算の仕方を整理しながら、「3人はこの概算をしてよかったのか」を問う。3人の概算の目的と概算とを関連付けて考えさせ、「だから」を使って説明させる。

「3人が気になっていたことをすっきりさせよう」と投げかけ、「(〇〇までの四捨五入)をする(約〇円)ということがわかります。だから、(四捨五入で)概算すればいい」のように、概算結果を根拠にするなどのようなことが言えるのかを解釈・判断させることで、和の概算についての理解を深めたい。

④ 本時の学習を振り返る。(習得)

和と差の概算をするには、どんな概数にすればいいといえるかな。

「概算をするにはどんな概数にすればよいかかな」という問いに対する答えとして「本時のタイトル」を考えさせる。

ここで、差の概算を取り上げ、和の概算同様

に概算してよいことを知らせる。最後に、練習問題をスライドで提示する。練習問題の概算は「だれの概算と処理の仕方が同じか」を問うことで、本時の学習の理解度を図る。さらに、その説明は、家庭学習で取り組む「説明力アッププリント」で取り組ませること

で、論理的説明力を高めたい。

1 主眼

3要素2段階(×、土)の問題の数量関係を図に表し、「順にもどして」考える思考法で解決し、その解決方法を説明できる。

2 指導上の留意点

① 演算決定をすることに課題のある児童が複数いるため、はじめは2要素1段階の逆思考の問題を扱い、その問題に1要素加えることにより、3要素2段階の逆思考の問題に取り組むことで、どの児童も考えられることができるようにする。

② 図のかき方、図からの立式など、全員が自分の考えをもつことができていることを確認することで、全員が主体的に学習に参加できるようにする。

③ 誤答や困っていることについては、みんなで共有し、学び合いを通して解決していく。

評価

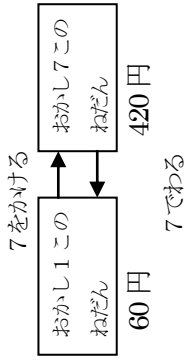
- ・図をもとに、順にもどして考えることができる。
- ・問題を図に整理して順にもどして考えて解く方法を理解している。

めあて

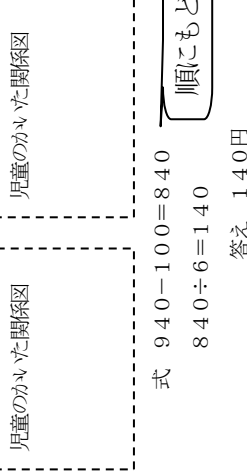
3つの関係を図にかき、答えの求め方を説明することができる。

問 おなじねだんのおかしを7こ買いました。
おかし7このねだんは420円です。
おかし1このねだんは何円ですか。

式 $420 \div 7 = 60$
答え 60円



① 同じねだんのノートを買った。次に100円のジュースを買った。全部で940円です。
ノート1さつはねだんは何円ですか。



式 $940 - 100 = 840$
 $840 \div 7 = 140$
答え 140円

② りんごを8こ買いました。60円まで買って、900円はらいました。
りんごは1こ何円ですか。

児童のかいた関係図や考え

わかったこと
3つの関係を図にかき、右から順にもどすと答えが求められる。

順にもどす

学習過程

1 問題文を読み、おかし7個の値段が分かればわり算でおかし1個の値段を求められることを知り1個の値段を求める。
◆おかし1個の値段を求めるためには、7個の値段がわかる必要があることは、次の問題での大事な考え方になる。このことに気付くことができるために問題文では7個の値段を提示せず、児童から数値を求めてくるようにする。
◆立式が苦手な児童が多いため、はじめは2要素1段階の逆思考の問題に取り組む。また、ここで関係図に表すことで図のかき方や意味を理解できるようにする。

2 「ノート1冊の値段」、「ノート6冊の値段」、「全部の値段」の数量関係を図に表し、ノート1冊の値段を求め、求め方を説明する。
◆立式するためには、3要素の数量関係を正しく把握できていることが必要であることから、はじめに関係図をかき、前の問題の図の方を参考に、続きをかく。
◆ペアで図を見せ合い、図の意味を説明し合う。お互いの図が違う場合には、必ず質問し、相手の考えが理解できるようにする。

3 教科書P34②の問題を解決する。
◆学習したことと定着を図るため、練習問題を解く。順思考で図をかき、「乗法、減法」となるため、「減法」のところが図を間違える児童がいることが予想される。ここでは、図が違っても立式計算までを自分で計算することでも立式計算までを自分でする。計算をするときに図の間違いいにも気付くことを期待する。
◆全体学習では、図のかき方や立式がよく分からなかった児童がいたら、何に困ったのか、何がよく分からなかったのかを尋ね、みんなで一緒に決めていく。
4 「振り返り」として、「わかったこと」をノートに書く。